

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590500070		
法人名	伊藤建友株式会社		
事業所名	グループホームしんざんの里		
所在地	秋田県由利本荘市石脇字山ノ神11番地714		
自己評価作成日	平成28年2月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・家族との関係を断ち切らないよう、住み慣れた我が家や地域に出掛けられるよう支援している。生活リハビリだけでなく本人の出来る事を最大限活用できるように取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>中心市街を見下ろせる高台に事業所があります。食事に関する一連の作業は食材の下拵え、盛りつけを始め、自由に調理場にも出入りしながら、配膳・下膳まで利用者と職員が日常的に一緒に行っています。調査当日も数名の利用者が包丁を使ってりんごの皮むきをしていました。避難訓練の日時を地域の広報に載せていただいたところ、自主的に近所の住民が訓練に参加してくれるなど、地域との協力体制も徐々に築かれています。どんな小さな「ヒヤリハット」もすべて全職員で共有し、原因・防止方法を話し合いながら支援されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関と事務所に掲げ共有し、より具体化した目標も取り組んでいる	法人の理念を基に事業所の理念を作成し、更に 毎年度の目標もつくり、定例会などで話し合いながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月近隣の方々がボランティアに来て下さり、時折、近所の子供達も遊びに来てくれ、町内便りも活用させて頂き交流している	自治会の広報誌に事業所の紹介や、道路のクリーンアップ、ボランティアのミュージックケア、語り部等々で交流を深められています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	家族や地域の方、ボランティアには来所時伝えるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、推進会議の内容を報告し話し合いのもと、向上に努めている	行政職員、地域の代表などが出席し、事業所の取り組み状況を説明し、委員からは率直な意見を頂きサービスの向上に繋がっています。議事録はきめ細かく記録されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも困難事例を電話や直接足を運び相談している	市のグループホーム連絡協議会、事例検討会に必ず出席され、情報を交換しながら連携を深められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の委員会にて事例検討や予測を話し合い、身体や言葉による拘束に繋がらないよう取り組んでいる	委員会が主になり、課題について話し合いながら、拘束のないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束虐待委員会が中心となり情報共有し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加やパンフレット等、常時目を通してはいるが、個人差がある為努力して行きたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明で不安な点などは、面会時随時説明し対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は常に拾い上げ、全職員が共有し運営に反映するよう努めている	面会時には話しやすい雰囲気づくりに努め、意見要望などは介護記録や申し送りなどで共有し、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議や申し送りにて、意見や出来るよう機会を設けている	日々の話し合いなどでも積極的に意見や要望などを出し合い、運営に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の実際と力量を把握し内外の研修を受ける確保に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や地域ケア会議、他研修に参加し、交流の機会を多く持つよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のバックグラウンドに基づき、信頼関係を築けるよう傾聴を心がけ、普段の会話の中で要望等汲み取れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に、家族の不安や要望等聞き、解決できるよう努め、他、面会や電話などでも助言している		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けにて、本人の意志確認しながら、本人が出来る事は援助しながら一緒に行えるようにしている		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出や外泊、または面会の少ない利用者に対しては、家族や自宅に出向き絆を断ち切らないようにしている		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や地域までのドライブの他、地域での買い物等関係を継続するよう努めている	入所以前までの暮らしの把握に努め、馴染みの理髪店に外出したり、これまで関わってきたことが途切れないように支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士会話や、作業を通じて関わり合いが持てるよう支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて面会や連絡等行うよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	欲しい物や出かけた場所等希望を聞き、困難な場合は、日常生活の中より意向の把握に努め選択・決定出来るよう援助している	日々の関わりの中での行動や表情から、また声掛けの仕方などで工夫し時間をかけて、意向や思いを把握し、介護記録やミーティングなどで共有し支援されています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報を基に、それぞれの生活歴や生活リズムを把握するよう努め、家族来所時にもさりげなく情報得ている		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを大切にしつつ、心身状態や思いなどの小さなサインを見逃さないよう努めている		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや会議等で、職員同士意見交換し、本人・家族との話し合いにてカンファレンスを行い介護計画に反映させている	本人・家族の意見などを聞き、職員全員でカンファレンス・モニタリングを繰り返しながら、本人本位の介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝・夕の申し送りやミーティングにて情報共有に努め、介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にスーパーや公園や景色を楽しめる場所があり、ボランティアの訪問や認知症カフェへの参加にて支援している		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望にて、かかりつけ医との関係を築き、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の往診(月2回)、歯科の往診もあります。それぞれの情報を家族、職員が共有し、受診介助は家族の協力もあります。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職はいないが、代わりに医療に対応することが出来るよう、受診時に報告を行い安心して通院できるよう支援している		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は勿論、入院期間中も病院関係者との情報交換や相談等を行い、職員の周知と共に努めている		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りをしない方針である事を入居前や契約時に説明し、家族からの理解を得ている	可能な限り、家族の要望に添えるように、関係者と連携しながら終末ケアに取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え教本やマニュアルに目を通してはいるが、更に講習会への参加にて実践訓練につなげていくよう努めたい		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を行い、隣接の同事業所と自家発電機の操作も毎日行っている	消防署員・地域の方と避難・通報・初期消火訓練が実施されています。各居室には大きなタッチライトが停電時に備え付けられています。防災委員会が主になり、訓練時の課題などを皆で話し合いながら防災意識の向上に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者の尊厳を大切に話しやすい雰囲気や対応を心がけている	受容を基本とし、皆で話し合いの機会を常につくり、改善に努めています。排泄時の声掛けも自分に置き換えた対応がされています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が一方的に決めないよう本人の希望や思いを表しやすいように日頃より選択・決定出来るように努めている		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活やペース、意向をできるだけ優先するよう努めている		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの服を購入したり、選んで着てもらうようにしている。気候に合った服装は、声掛けしながら交換している		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時、食べたいものを聞いたり、出来る下ごしらえや盛り付け等行い、個々に合わせ食べやすい大きさでの提供に努めている	利用者がゆっくりと食事出来るように座る位置にも配慮されています。配膳・下膳・食事も職員と一緒に静かな雰囲気の中かで摂られています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録し、それぞれに合わせた量などを心がけている		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食は出来ていないが、助言や誘導にて行い個々に応じたケアを行っている。また、訪問歯科診療を利用し、口腔状態の改善に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り自立できるように支援している。夜間のみポータブルトイレを使用するなど、個々の排泄パターンを把握し羞恥心に対しても配慮している	一人ひとりに適した介護用品が使用され、精神面での適切な支援により改善された事例もあります。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物や運動、マッサージによる対応で困難な場合は医師と連携し、服薬にて対応している		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、決めず本人の希望や体調に合わせた支援をしている	気持ち良く安心して入浴できるように、入浴剤や浴槽内には滑り止めのマットを使用されるなどして、週2～3回入浴されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の寝具を持ち込んでもらい個々に合った休息や習慣を大切に、温度調整にて心地良い空間を配慮している		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状の確認や、目的を職員間にて理解に努め、薬変更時には、それによる症状の変化の確認に努めるよう支援している		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事や出来る事、好きなものを会話の中より拾い上げ、力を活かした役割や楽しみ事につなげるよう支援している		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望になるべく浴うように、買い物やドライブへ出かけられるようにしている。また、家族との話し合いにて一部ではあるが、自宅への外出等の支援もしている	日常的な散歩の他、希望により遠出の外出、また 地域資源を活用した外出を多く取り入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理したい方は自己責任で、財布を持っている。買物に出掛けた際は、支払いを自分でできるように支援している		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかかけられるように支援している。また、希望があれば手紙のやりとりが出来るよう支援していきたい		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間からは、常に外が見え四季を感じられるようになっており、季節に応じた光量や飾り付けを行い、清潔感ある空間づくりに努めている	食堂を兼ねたホールからは窓越しにアカシヤの林が、事業所内の談話室は、家族・利用者と職員の交流スペースとして利用され、落ち着いた共用空間となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の居室は勿論だが、食堂ソファや座席・談話室の使用にて一人になれたり、利用者同士で会話できるよう工夫している		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、個々に使い慣れた物等持ち込んで頂き、ベットや家具の配置も本人の意向を取り入れるなどし、居心地が良いよう工夫している	押し入れは広く衣類など多くの物が収納でき、室内はすっきりしています。敷物なども季節に合わせて取り替えるなど、一人ひとりの生活スタイルとなっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室や共有するトイレには、分かるように表記し、手摺りの設置など安全かつ安心して生活できるよう配慮している		